

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年1月14日

【四半期会計期間】 第20期第3四半期（自平成25年9月1日至平成25年11月30日）

【会社名】 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド

【英訳名】 Samantha Thavasa Japan Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 寺田和正

【本店の所在の場所】 東京都港区北青山1丁目2番3号

【電話番号】 03-5412-8193

【事務連絡者氏名】 常務取締役 菅原隆司

【最寄りの連絡場所】 東京都港区北青山1丁目2番3号

【電話番号】 03-5412-8193

【事務連絡者氏名】 常務取締役 菅原隆司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期 連結累計期間	第20期 第3四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日	自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日	自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日
売上高 (千円)	19,249,042	20,954,238	27,480,961
経常利益 (千円)	62,979	702,104	940,017
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失() (千円)	819,152	207,076	397,074
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	945,282	176,915	514,082
純資産額 (千円)	7,682,376	8,006,995	8,112,447
総資産額 (千円)	15,852,143	17,849,946	14,606,242
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期(当期)純損失金額() (円)	2,320.81	586.69	1,124.98
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	47.7	44.3	54.7

回次	第19期 第3四半期 連結会計期間	第20期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日	自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	2,346.29	615.49

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 当社は平成25年6月1日付で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び1株当たり四半期(当期)純損失金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間において、当社の持分法適用会社であったスタイライフ株式会社の全株式を売却したことにより、同社を持分法適用の範囲から除外しております。また、ノーマディック株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としております。

第2四半期連結会計期間において、株式会社ラ・エストの全株式を取得し、同社を連結子会社としております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日銀の積極的な経済・金融政策の推進により円安・株高が進行し、景況感には改善の動きが見られましたが、雇用・所得環境は厳しい状況が続くなど、実体経済は依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、景気回復の期待感を背景に個人消費の持ち直しの動きがみられるなど、一般的に堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

・店舗展開について

バッグ事業においては、平成25年4月26日に大阪駅北側に開業した話題性の高い大型複合施設であるグランフロント大阪に「サマンサタバサデラックスプラス グランフロント大阪店」、大阪南部の新しいランドマークであるあべのハルカス近鉄本店に「サマンサタバサ プチチョイスプラス あべのハルカス近鉄本店」を出店するなど合計15店舗を展開いたしました。

さらに、旗艦店である「サマンサタバサDELUXE 表参道GATES店」ではリニューアルを行い、ホログラムによる立体的なビジュアルを使った最新のディスプレイを店内に設置するなど、CMと連動した店舗展開を推進いたしました。

ゴルフ事業においては、日本最大級のゴルフ売場として有名な名古屋松坂屋に「U25&No.7 サマンサタバサ 名古屋松坂屋店」を出店し、新宿の小田急百貨店に「U25&No.7 サマンサタバサ 新宿小田急ハルク店」、阪急うめだ本店に「U25&No.7 サマンサタバサ 阪急うめだ本店」を出店しました。さらに宮崎県の国際リゾート施設であるフェニックス・シーガイア・リゾート内にも「サマンサタバサ トム・ワトソンゴルフコース店」を出店し、サマンサタバサのバッグとゴルフアパレルの複合店舗という新業態を展開するなど合計4店舗を出店いたしました。

アパレル事業においては、「リッチミーニューヨーク 横浜タカシマヤ店」「スウィングル 阪急うめだ本店」「ウィルセクション 大丸京都店」「ウィルセクション 大丸梅田店」を出店いたしました。また、アウトレット事業においても、成田空港からもアクセスが便利な大型アウトレット施設である酒々井プレミアム・アウトレットに「サマンサタバサ ネクストページ酒々井店」を、土岐ブ

レミアム・アウトレットに「サマンサタバサ ネクストページ土岐店」を出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計で27店舗を出店いたしました。さらに、株式会社ラ・エストの子会社化に伴い、同社の56店舗が新たに当社グループに加わっております。

・プロモーション活動について

バッグ事業においては、「Samantha Thavasa × カワイイ × Art」の融合をテーマとして、若手クリエイターが描き出す12か月の季節や行事に合わせた12種類のアートビジュアルに、世界で最も活躍しているファッションモデルの1人である「ミランダ・カー」が出演する「Samantha Thavasa 2013 C M」の放映を行ってきました。

また、「ファッションと音楽の融合」をテーマに、板野友美さんの4 t hシングル「1 %」と連動したスペシャルコラボレーション C Mを制作し、板野友美さんと、女優やボーカリストとして世界的にも有名な「テイラー・モムセン」が、ファッションの聖地であるニューヨークのソーホーで撮影した「Samantha Vega × 板野友美 loves テイラー・モムセン in NEW YORK」の C M放映も行いました。

ジュエリー事業においては、平成25年3月より「すべての女性に華やかな輝きと幸せを」をテーマとして、サマンサミューズの蛸原友里さん、山本美月さん、土屋巴端季さん、板野友美さんが出演するサマンサタバサのジュエリーブランド「Samantha Tiara」「SAMANTHA SILVA by Samantha Tiara」の C M放映を行いました。また、平成25年11月より「Merry Christmas from Samantha Tiara」と題し、サマンサミューズの蛸原友里さん、山本美月さん、土屋巴瑞季さん、白石麻衣さんが出演する「Samantha Tiara」の C M放送を行いました。

アパレル事業においては、当社100%子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドのアパレルブランド「WILLSELECTION」の初となる C M放映も行い、大人気アイドルグループ A K B 48の島崎遥香さん、菊地あやかさんが出演し、「女性であることを楽しむ、ファッションを楽しむ」をコンセプトに、商品やブランドの魅力を発信いたしました。また、新たに当社グループとなった株式会社ラ・エストの創立35周年を記念し、同社の主力ブランド「L'EST ROSE」と、人気女性ファッション誌「JJ」、「Ray」、「AneCan」、「美人百花」とコラボレーションを行った C Mも放映しました。

さらに、ゴルフ事業においては、L P G A公認女子プロトーナメント「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント2013」を平成25年7月19日から21日までの3日間、茨城県のイーグルポイントゴルフクラブで開催しました。当大会には、サマンサタバサ所属女子プロゴルファーである香妻琴乃プロ、堀奈津佳プロ、山村彩恵プロ、「No7 Samantha Thavasa」ウェア契約の原江里菜プロ、サマンサタバサ契約女子プロゴルファー青木瀬令奈プロ、嶋田江莉プロら、トッププロが参加しました。また、「ファッションとゴルフの融合」をコンセプトに、サマンサミューズによるスペシャルイベントや、スペシャルライブなどを開催し、3日間の合計で約1万6千人の方にご来場いただきました。この大会は来場者数の多さもさることながら、男性ギャラリーの割合が大きい女子プロトーナメントが多い中で、約1/4が女性ギャラリーで占められていることも大きな特徴の一つであり、当社のゴルフ事業のポテンシャルや期待の高さを感じております。

また、初のデニムブランド「Samantha Thavasa Jeans(サマンサタバサ ジーンズ)」のデビューを記念し、アジア NO.1のスーパーガールズグループ「少女時代(Girls' Generation)」とプロモーション契約を締結し、少女時代が出演する「サマンサタバサ ジーンズ スペシャル C M」の放映を行いました。

・商品戦略について

各ブランド事業において新作を販売し、多様化するファッションニーズに応える商品を積極的に展開してきました。バッグ事業においては、注目商品である「サマンサアゼル」「サマンサヴェール」「パナマアリッサ」「サマンサエフィー」「サマンサフローラ」「レディアゼル」「ルイーザ」を、ジュエリー事業においては、「フラワーレターズ」「フラワーインフィニティー」を中心に、CM・雑誌・店頭・WEBなどと連動したプロモーション戦略が奏功し、売上の拡大につなげることができました。特に、平成25年3月に当社のジュエリーブランドである「Samantha Tiara」については、消費者ニーズに対応した高い商品力が評価され、ファッション業界に貢献した企業・団体・個人に贈られる「第31回（2012年度）百貨店バイヤーズ賞」（織研新聞社主催）を受賞いたしました。さらに、平成25年9月27日におきましては「13年春夏百貨店バイヤーズ賞」（織研新聞社主催）を受賞いたしました。

さらに、商品の魅力をより高めるコラボレーションも継続して行い、当第3四半期連結累計期間においては、雑誌とのコラボレーションによるバッグや、人気モデル・スタイリストがデザインしたシューズを発売いたしました。また、初のデニムブランド「Samantha Thavasa Jeans（サマンサタバサジーンズ）」を立ち上げ、平成25年9月より展開いたしております。

総合オンラインショッピングサイトAmazon.co.jpのKindleストアにおいて、サマンサタバサ人気シリーズである「サマンサマリッサ」、「サマンサフローラ」の電子書籍リーダーKindleの専用カバーを販売いたしました。

また、平成25年6月より無料で通話やメールが楽しめるコミュニケーションアプリであるLINEでも公式アカウントの提供を開始しました。さらに8月には数量や時間を限定した商品を配信する「LINEシークレットセール」を通じてLINEとのコラボレーションバッグも販売いたしました。ブランド情報を受け取ることでできる「友だち」の登録も約1ヵ月で40万人超を獲得することができました（平成26年1月14日現在「友だち」登録446万人超）。LINEは、ユーザー数が全世界に3億人、日本でも4,700万人を超えており、今後新たなサマンサグループの情報発信ツールとして積極的に活用していきます。

また、当社は、株式会社ラ・エストの発行済株式の全部を取得し、当社の子会社といたしました。今回、当社が株式会社ラ・エストを子会社化することで、当社の100%子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドが展開しているアパレル部門の事業拡大につながり、ひいては、当社グループ企業価値の向上につなげてまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は209億54百万円（前年同期比8.9%増）、売上総利益は139億40百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は5億24百万円（前年同期比205.4%増）、経常利益は7億2百万円（前年同期比6億39百万円増）、四半期純利益は2億7百万円（前年同期は8億19百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

総資産は178億49百万円であり、前連結会計年度末と比較して32億43百万円増加しております。主な増加要因は、連結子会社の増加に伴う受取手形及び売掛金、商品及び製品並びにのれんが増加したことなどによるものであります。

(負債)

総負債は98億42百万円であり、前連結会計年度末と比較して33億49百万円増加しております。主な増加要因は、連結子会社の増加に伴う支払手形及び買掛金並びに短期借入金が増加したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産は80億6百万円であり、前連結会計年度末と比較して1億5百万円減少しております。主な減少要因は、配当の支払いに伴う利益剰余金の減少などによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

該当事項はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,344,000
計	1,344,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年1月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	352,960	352,960	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株制度を採用して おりません。
計	352,960	352,960		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月1日～ 平成25年11月30日		352,960		2,132,600		2,252,600

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 352,960	352,960	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式			
発行済株式総数	352,960		
総株主の議決権		352,960	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年9月1日から平成25年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年3月1日から平成25年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,198,619	1,782,596
受取手形及び売掛金	1,852,066	2,811,569
商品及び製品	4,334,540	7,071,199
仕掛品	-	23,339
原材料及び貯蔵品	172,425	291,853
その他	726,419	752,557
貸倒引当金	628	1,314
流動資産合計	10,283,443	12,731,801
固定資産		
有形固定資産	1,078,601	1,126,294
無形固定資産		
のれん	34,229	932,209
その他	238,736	281,564
無形固定資産合計	272,966	1,213,773
投資その他の資産		
差入保証金	2,043,914	2,193,106
その他	927,317	584,970
投資その他の資産合計	2,971,231	2,778,076
固定資産合計	4,322,799	5,118,144
資産合計	14,606,242	17,849,946
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,365,671	2,651,087
短期借入金	600,000	1,694,390
1年内返済予定の長期借入金	1,259,000	1,740,076
未払法人税等	315,467	108,748
賞与引当金	144,000	351,881
その他	999,892	1,448,720
流動負債合計	4,684,030	7,994,904
固定負債		
長期借入金	1,709,500	1,742,764
その他	100,264	105,283
固定負債合計	1,809,764	1,848,047
負債合計	6,493,795	9,842,951

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	3,642,182	3,566,891
株主資本合計	8,027,382	7,952,091
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,338	21,326
為替換算調整勘定	44,766	64,023
その他の包括利益累計額合計	37,427	42,696
少数株主持分	122,492	97,600
純資産合計	8,112,447	8,006,995
負債純資産合計	14,606,242	17,849,946

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
売上高	19,249,042	20,954,238
売上原価	6,950,337	7,013,366
売上総利益	12,298,704	13,940,871
販売費及び一般管理費	12,127,029	13,416,557
営業利益	171,675	524,314
営業外収益		
受取利息	4,345	637
受取配当金	7	10
為替差益	8,271	107,394
補助金収入	-	2,302
償却債権取立益	-	51,900
その他	8,736	46,420
営業外収益合計	21,361	208,664
営業外費用		
支払利息	33,931	29,148
持分法による投資損失	93,326	-
その他	2,799	1,725
営業外費用合計	130,056	30,874
経常利益	62,979	702,104
特別利益		
関係会社株式売却益	-	105,570
固定資産売却益	-	210
負ののれん発生益	-	41,232
特別利益合計	-	147,013
特別損失		
固定資産除却損	163,745	84,607
ブランド整理損	654,320	-
関係会社整理損	111,425	-
関係会社株式売却損	-	40,841
その他	9,236	26,447
特別損失合計	938,727	151,896
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	875,748	697,221
法人税、住民税及び事業税	68,024	184,049
法人税等調整額	23,941	345,936
法人税等合計	44,083	529,985
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	919,831	167,235
少数株主損失()	100,678	39,841
四半期純利益又は四半期純損失()	819,152	207,076

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	919,831	167,235
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,828	13,988
為替換算調整勘定	21,622	4,307
その他の包括利益合計	25,450	9,680
四半期包括利益	945,282	176,915
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	846,613	201,808
少数株主に係る四半期包括利益	98,668	24,892

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	<p>第1四半期連結会計期間において、ノーマディック株式会社の発行済株式の全株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。</p> <p>第2四半期連結会計期間において、株式会社ラ・エストの発行済株式の全株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。</p> <p>当第3四半期連結会計期間において、Samantha Thavasa Shanghai Trading Limitedの全株式を売却したことにより、同社を連結の範囲から除外しております。</p>
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	<p>第1四半期連結会計期間において、当社の持分法適用会社であったスタイライフ株式会社の全株式を売却したことにより、同社を持分法適用の範囲から除外しております。</p>
<p>当該連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更は、当第3四半期連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与えます。</p>	

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。
 なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)
減価償却費	448,927千円	386,838千円
のれんの償却額	8,922千円	24,905千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月30日 定時株主総会	普通株式	141,184	800	平成24年2月29日	平成24年5月31日	利益剰余金
平成24年10月15日 取締役会	普通株式	141,184	800	平成24年8月31日	平成24年11月9日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月30日 定時株主総会	普通株式	141,184	800	平成25年2月28日	平成25年5月31日	利益剰余金
平成25年10月15日 取締役会	普通株式	141,184	400	平成25年8月31日	平成25年11月8日	利益剰余金

(注) 当社は、平成25年6月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株とする株式分割を実施しております。

なお、平成25年5月30日定時株主総会決議に基づく1株当たり配当額については、当該株式分割前の金額を記載しております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()	2,320円81銭	586円69銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	819,152	207,076
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	819,152	207,076
普通株式の期中平均株式数(株)	352,960	352,960

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、平成25年6月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額を算定しております。

2 【その他】

第20期(平成25年3月1日から平成26年2月28日まで)中間配当については、平成25年10月15日開催の取締役会において、平成25年8月31日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	141,184千円
1株当たりの金額	400円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年11月8日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 1月14日

株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 橋 一 生 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野 水 善 之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年9月1日から平成25年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年3月1日から平成25年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド及び連結子会社の平成25年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。